環境班

校内の緑化促進や景観改善を図る

１．メンバー

岩佐謙　大坪亮太　日置陵　藤岡陽平　細野稔貴　武藤完成

２．テーマの設定理由

高鷲スノーパークから寄贈された花の種子などを利用して、生徒自らが学校の緑化を進んで行うことによって、校内の景観改善に努めたいと考え、設定した。

３．活動内容

月日	内容
１～２月	防護柵、炭焼き釜の竹の撤去と処分
３月	花の種寄付、マリーゴールドの播種
４～11 月	草花の水やり
４月	マリーゴールドの鉢上げ、追肥
５月	マリーゴールドの定植、玄関に設置、グラウンド花壇の撤去
６月	竹花壇づくり（裏山)、カスミソウの播種、看板作り、ブルーベリー周辺の草刈り
８月	ベゴニアの切り戻し、追肥、定植、グラウンド花壇跡地の防草シート張り
９月	マリーゴールドの撤去、ハウス内の整理
10 月	ベゴニアの定植、追肥、裏山の緑地化
11 月	ベゴニアの定植、ベゴニアの処分
12～１月	発表準備

４．実施報告

（ア）防護柵、炭焼き釜の竹の処分

昨年度、業者によって柵が作られ、防護柵としての必要性がなく、炭焼き釜に放置してあった竹は今後使うことがないため､それぞれ解体し撤去した。

（イ） 高鷲スノーパーク花の種寄付

高鷲スノーパークＤＪブースの方が､エコ活動の一環で､花の種子約 1,000 袋を寄付された。内訳は、マリーゴールドが全体の 22%、カスミソウは全体の 78%であった。

①マリーゴールドの管理

＜播種＞

１）よく混ぜた土を、セルトレイに入れる。

２）１セルに１個ずつ播種し、軽く覆土する。

３）食品流通科温室棟の発芽器に入れる。

＜発芽率＞

発芽率は60％でよくなかった。

＜鉢上げ＞

１）土をポットに入れる。

２）土にマリーゴールドが入るくらいの穴をあけ、そこに移植する。

※移植する際、わりばしでくりぬいてから移植する。

＜鉢上げ後の管理＞

緩効性肥料（ＩＢ化成）を、マリーゴールドを挟むようにして１ポットあたり２粒ずつ追肥をした。

＜定植＞

プランターや公園の花壇、正門花壇にそれぞれ定植した。

１）混ぜた土を、プランターに８分目まで入れる。

２）マリーゴールドが入るくらいの穴をつくり、定植していく。

※定植のとき、同じ高さのマリーゴールドを選ぶと同時に、ある程度の間隔をあけることに注意する。

＜設置後の管理＞

・株の勢いが弱くなってきたら、追肥(ＩＢ化成)を適度に行なった。

・「マリーゴールド」ということが分かるように、仮の看板を作製した。

・栄養分が種子の方へ取られてしまう前に、花が終わったものから花がら摘みをした。

②カスミソウの管理

グリーンライフの時間に、播種や間引きの作業を３年生全員にしてもらい、毎日の水やりを班で管理した。

＜播種＞

１）土をセルトレイに７分目入れ、１セルあたり２粒播種する。

２）その上から軽く覆土する。

＜間引き＞

１セルあたり１，２株になるように、間引く。

（ウ）ベゴニアの管理

食品流通科からいただいたベゴニアを大切に管理した。

①切り戻し

株に勢いがなくなった頃に切り戻すことによって、徒長した株をすっきりさせるとともに、株に勢いをつけ、新しい葉や花を咲かせるように促進させることが目的である。株を選定し、切り戻しを行った。

②竹ポットづくり

竹のポットづくりを授業で習ったことを生かした。

１）太い竹を選定し、伐採する。

２）一方は節から３ｃｍ、もう一方は節から10ｃｍほどのところで切断する。

３）竹の底にいくつか穴をあけ、底に砂利を敷き詰める。

③定植

１）土をプランターや竹のポットに入れる。

２）マリーゴールドの定植と同じ要領で定植していく。

④定植後の管理

緩効性肥料（ＩＢ化成）をマリーゴールドのときと同じ要領で追肥をし、学休日を含め、再編成時の管理当番で管理をした。

（エ）公園

①公園整備

裏山に未開発の土地があるため、緑化を目的とした公園を整備した。

＜竹の花壇づくり＞

１）太い竹を伐採し、花壇の大きさに切る。

２）剣スコップで土をやわらかくする。

３）竹枠をつくり、竹杭で固定する。

＜竹の花壇完成後＞

・マリーゴールド、ベゴニアの定植を行った。

・必要に応じて、プランターや竹ポットを竹花壇のそばに並べることで、緑化に役立てた。

②グラウンド花壇の撤去

グラウンド花壇の土は湿り気などがあり、花壇にできる状態ではなかったため、完全に撤去した。

１）トラックの荷台にブルーシートをしき、そこに花壇の土を入れる。

２）トラックで運び、撤去する。

５．問題点とその対処法

（ア）課題研究活動の進め方

①最初からきちんと計画を立てなかったために、自分たちがやりたいことと違う活動をしてしまった。

→自分たちがやりたい活動をきちんと行うために、これまでの活動を振り返った上で、改めて計画を立て直すことによって、無駄のない活動を行うことができるようになった。

②課題研究は本来、生徒が主体の活動であるが、活動当初は先生主体であった。

→活動前までに自ら生徒が活動内容を計画し、それを実行し、その活動を振り返り、そこで出た問題点を改善していくことを徹底させることで、意欲的に活動を行うことができるようになった。

（イ）草花の管理

・当番が決まっていたのにも関わらず、花の管理を怠ったために、花が枯れそうになったり、枯れてしまったりした。

→草花を担当する係を設け、当番を再編成し、責任を持って管理を行うことで、学休日も含め、自主的に管理することができた。

６．結果

（ア）課題研究の進め方

先生に指示されなくても、自ら考え、行動できる生徒主体の活動となった。

（イ）草花の管理と緑化

①カスミソウ

管理が不十分で枯らしてしまった。

②マリーゴールド、ベゴニアと公園

きちんと管理をしたため、緑化促進や景観改善に役立てることができた。

７．考察

・課題研究の活動を通して、社会でも必要な「自立心」を身につけることができた。

・水やりなどの活動を通して、命の大切さを学ぶことができた。

８．今後の課題

・しっかりとした目的を持ち、無駄のない活動を行うこと。

・先生主体ではなく、生徒主体での活動を継続すること。

・今年度までの活動は継続しないで、学科の技術を生かした新しい活動を展開すること。